

人と向き合うということ

私には看護師になって患者を支えたいと強く思った出来事がある。それは私が5年一貫の看護学校の4年生になった時である。当時私にはお付き合いしている人がいた。彼はいつも元気がよく、私が出会った中で1番ポジティブな思考を持っている人だった。しかし突然彼からの連絡が来なくなり、私は彼の友人に連絡したところ、彼が亡くなったことを聞いた。突然死だった。原因はストレスだと彼の家族から聞いた。初めは頭が追いつかず、現実を受け止めることができなかった。しかし、いつまでも彼からの返信が来ないことが現実だった。

彼は元々スポーツマンであったが、怪我をして大好きなスポーツをすることが出来ない体になってしまっていた。職場でも怪我の後遺症により、救急車で運ばれたことがあり、プライドの高い彼はそのことを気にし、「同期に負けたくない」と、労働時間外でも自分から進んで仕事をするようになった。私はそんな彼を心配し、「倒れそうで怖い」とメッセージを送ると「俺は倒れんから大丈夫よ」と送られてきたのが彼と私の最後の会話だった。私は彼が亡くなる前、手紙をもらったことがある。その手紙には「いつもみんなの前では強がるけど本当は悔しきでいっぱい」と書かれてあった。私は彼がいなくなって、自分が彼に本当の意味で寄り添うことができていなかったことに気づいた。手紙から悔しい思いをしていることは知っていたが、どのくらい悔しいのかまではわかっていなかった。私はプライドの高い彼がやっと手紙の中で吐き出せた本音、彼からのSOSに気づいていなかったのだ。彼はいつも元気であり、彼なら大丈夫だと思う気持ちがあった。

私はなぜ気づくことができなかったのかと沢山の後悔をした。しかしいくら後悔をしたところで彼はかえってこない。その時に私は人と向き合うことの本当の意味を知った。私は人と人は向き合っているようで本当の意味で向き合っている人は少ないと思う。看護は身体面のケアだけでなく、精神面のケアも含まれる。治療による、身体面の治癒は目で見ることができる。しかし、患者が抱えている不安やストレスは、目で見ることができない。また、ストレスなどは周りに心配をかけないように1人で抱え込んでしまう人が多い。どんな人でも、ストレスを抱えていない人はいないと思う。私は患者が辛い時に辛いと吐き出しやすい看護師になりたい。言葉にするのは簡単で、実際に患者に精神面まで向き合うことは難しいと思う。しかし、私はこれ以上精神面の異常に気づけず、人を亡くし、後悔するという経験はしたくない。そのため、まずは今周りにいる友人、家族を大切に、1人1人と向き合っていきたい。人はいつ死ぬかわからない、だからこそ今生きている目の前の人との出会いに感謝し、その人に寄り添い、大切にしていきたいと思う。